

2023年（令和5年度）

小畠病院年報

Kobatake Hospital Annual Report

病 院 長 挨拶



この度2023年度の年報を上梓する運びとなりました。2022年5月から新型コロナウイルス感染症が第五類感染症に変更となり、当院では2023年末に3年ぶりに法人としての忘年会を開催、2024年5月には新入職員歓迎会も開催することができ、コロナ前の生活が戻ってきたと実感しております。

地域では毎年8月に行われていた駅家サッサカ（夏祭り）が3年ぶりに再開され、さらに9月には駅家地区の新文化祭が開催されました。当院は地域密着型の病院でもあり、以前より駅家サッサカに参加しておりました。これに加え、2023年度は新文化祭にも参加し、当院のブースを設置して健康相談や栄養相談を行いました。来場いただいた地域の皆さんと接し、当院の地域での役割は何なのかを改めて再確認する機会となりました。そして当院はただ単に駅家をはじめとする福山市北部の医療を支える存在だけでなく、住民の方々と地域を「共創」していく役割を担っているのだと感じました。もちろん当院としてできる機能が増えることに越したことはありません。ただ機能が増えるだけでいいのか？これから病院、あるいは法人全体が地域を「共創」して行くにはどうしたらいいのか？このことを今後考えていければと思っております。

当院では以前より地域の医療機関の先生方と連携し地域医療に貢献してきましたが、昨年度は過去最高の紹介件数を頂きました。ご紹介頂いた先生方には厚く御礼申し上げますと共に、緊急入院のご紹介に対して満床にてお断りすることも多くなり、同時に先生方に大変ご迷惑をおかけしましたことをこの場をお借りしてお詫び申し上げます。2024年度の診療報酬改定で、「地域包括医療病棟」という現在の地域包括ケア病棟以来の新しい病床単位が登場しました。これは端的に言えば「高齢者救急をもっと中小規模の病院で診るように」という国からのメッセージに受け取れます。当院では今後、地域包括医療病棟への転換も視野に入れながら、より多くの緊急入院に対応できるよう体制を整えていきたいと考えています。

私自身、最初の10年はどちらかと言えば診療がメインだったと思っております。しかしこれから10年はマネジメントを行っていくことがメインとなってくると考えております。もちろん私の本職は医師であることに変わりはありませんし、できる限り診療は続けていきたいと考えております。次の10年も、それ以降も引き続き地域にとってなくてはならない病院であり続けるため、そして職員が当院で誇りを持って働ける病院にするために、引き続き「地域に望まれる理想の医療を目指して」職員一同努力していく次第です。今後とも引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

病院長 小島 康平

病院理念

地域に望まれる理想の医療を目指して

基本方針

1. 私たちは患者さんの立場に立ち、安心して満足できる医療を提供します。
1. 私たちは患者さんに心から信頼される医療人を育成します。
1. 私たちは地域に密着した病院としての機能向上を図ります。

職員心得10句

1. 挨拶はすべての始まり社会人
2. 職場では笑顔と返事忘れない
3. 今日もまた明るく清くヒトとモノ
4. 何事も基本にもどる手引きかな
5. 旧弊は振り払うべし若者よ
6. いつまでも試行錯誤を恐れない
7. みんなして同じエラーを二度しない
8. 今日から必要なことをすぐやろう
9. 明日からはやれない訳（わけ）を探さない
10. 枯れるまでいつも心は向上心

病院概要

(2024年4月1日現在)

名称	医療法人社団玄同会 小島病院
開設	昭和61年3月（創立；昭和40年2月）
所在地	〒720-1142 広島県福山市駅家町大字上山守203番地 電話：084-976-1351 FAX：084-976-6309
理事長	小島敬太郎
病院長	小島廉平
副院長	原 睦展
看護部長	佐野京子
事務局長	矢吹秀介
標榜科	内科・泌尿器科・眼科・脳神経内科・消化器内科・循環器内科・糖尿病内科・ リハビリテーション科
病床数	一般病床（地域包括ケア病棟入院料1）：52床 療養病床（療養病棟入院基本料1）：59床
職員数	231人
建築面積	1,532.34㎡
延床面積	5,371.35㎡
保険医療指定機関 認定施設	各種社会保険療養取扱機関 国民健康保険療養取扱機関 老人医療取扱医療機関 労働災害保険取扱機関 生活保護指定医療機関 身体障害者福祉法医療機関 特定疾患治療取扱医療機関 原子爆弾被爆者一般医療機関 結核予防法指定医療機関 介護保険療養取扱機関 人間ドック実施医療機関 公益財団法人日本医療機能評価機構認定病院 【認定第JC637-3号、機能種別版評価項目3rd:ver.1.1）】 厚生労働省臨床研修指定病院（施設番号031937） 日本泌尿器科学会専門医教育施設認定病院（施設登録番号900089） 日本神経学会専門医教育関連施設（認定番号20230816号） 広島県難病医療ネットワーク事業協力病院 広島県地域リハビリテーション協力病院

併設事業所	小規模多機能ホーム芦花
	サービス付き高齢者向け住宅芦花
	ヘルパーステーション芦花
	居宅介護支援事業所こぼたけ
	デイサービスむべやま
	訪問看護ステーションこぼたけ
	小島病院 短時間通所リハビリ
付属施設	小島病院託児所

病院沿革

1945年	旧芦品郡宜山村大橋（現福山市駅家町大橋98番地）の旧高田医院を継承し、小島医院を開設 病院長 小島三喜男
1950年	一次休止
1957年 3月	小島内科再開
1965年 2月	現在地に小島病院設立 内科・外科（27床） 病院長 小島三喜男
1974年 3月	34床に増設
1974年 4月	厚生連より運営を委譲され服部診療所開設
1980年11月	泌尿器科標榜 透析治療開始
1982年12月	本館完成 111床に増設
1983年 9月	神経内科標榜
1986年 3月	医療法人社団玄同会設立 理事長 小島三喜男
1986年 9月	小島敬太郎 理事長・病院長に就任
1989年 2月	胃腸科（現、消化器内科）標榜
1989年 4月	体外衝撃波結石破碎装置（ESWL）導入
1989年12月	透析治療終了
1992年 6月	眼科標榜
1992年 9月	基準看護承認
	基本看護1（一般病棟52床） 特例看護1類（老人特例病棟47床）
1992年10月	体外衝撃波結石破碎装置（ESWL）施設承認
1993年 9月	日本泌尿器科学会専門医研修指定病院に認定される
1993年12月	中館完成
1994年11月	託児所完成
1996年 4月	第1回病院祭開催
1997年 1月	服部診療所新改築
	療養病棟入院基本料1承認（療養病棟47床） （老人病棟を療養病棟に名称変更）
1997年 4月	第2回病院祭開催
1997年 7月	ホームページ開設
2000年 3月	東館完成
2000年 4月	一般病棟58床、療養型56床、合計114床に増床
2000年 7月	療養型介護療養施設サービス費（Ⅰ）承認
	療養病棟56床の内9床を介護病床とする
2001年 4月	第3回病院祭開催
	院外処方箋開始
2002年 9月	小島病院訪問リハビリテーション事業所開設
2003年 1月	特殊疾患療養病棟入院料1承認（特殊疾患療養病棟30床）
	療養病棟27床（療養型17床、介護型10床）に変更

2003年 3月	小島病院居宅介護支援事業所開設
2003年 7月	広報誌「葦」創刊
2003年10月	厚生労働省臨床研修病院（協力型）に指定される
2004年 4月	広島県難病医療ネットワーク事業協力病院に指定される
2004年 6月	本館増築工事完成
	小島病院デイサービスセンターむべやま完成
2005年 4月	広島県地域リハビリテーション協力病院に指定される
2005年 8月	財団法人日本医療機能評価機構認定病院に指定される
2006年 5月	第4回病院祭開催
2006年 8月	救急医療機関の認定を受ける
2006年 9月	一般病棟52床（内、亜急性期病床6床）、療養病棟60床（内、介護療養病床7床）の計112床に病床変更
2006年10月	服部診療所閉院
2007年12月	オーダリングシステムを中心とした医療情報システムの導入
2008年 4月	地域連携室開設
2008年 7月	PACS（画像情報システム・フィルムレス化）導入
2010年 8月	財団法人日本医療機能評価機構 認定病院に更新認定される
2010年10月	介護療養病床を廃止し、一般病棟52床（内 亜急性期病床6床）、療養病棟60床の計112床に病床変更
2013年 3月	ケアモール芦花（サービス付き高齢者向け住宅芦花、小規模多機能ホーム芦花）開所
2013年10月	小島病院訪問看護ステーション開設
2013年11月	亜急性期病床を廃止し、一般病棟52床、療養病棟60床の計112床に病床変更
2014年 8月	循環器内科標榜
2015年 2月	電子カルテシステムの導入
2015年 8月	公益財団法人日本医療機能評価機構認定病院に更新・認定される
2016年 4月	福山市一般二次救急病院群輪番制に参加
2016年11月	一般病床：52床（地域包括ケア病棟）、療養病床：60床（療養病棟）の計112床に病床変更
2017年 3月	ヘルパーステーション芦花開設（ケアモール芦花大幅増築）
2017年 4月	一般病床：52床（地域包括ケア病棟）、療養病床：59床（療養病棟）の計111床に病床変更
2017年10月	第5回病院祭開催
2018年 1月	通所リハビリテーション（デイケア）開設
2018年 3月	院内託児所新築移転
2018年 8月	北館完成
2018年10月	訪問看護ステーションこばたけ 神辺サテライトステーション開設（2020年3月閉設）
2019年10月	デイサービスむべやま増改築
2020年 4月	小島廉平 病院長に就任
2020年 8月	公益財団法人日本医療機能評価機構認定病院に更新・認定される
2022年 7月	接触式レーザー前立腺蒸散術装置（CVP）導入
2022年 9月	電子カルテシステムの更新（NEC社製）
2023年 4月	糖尿病内科標榜

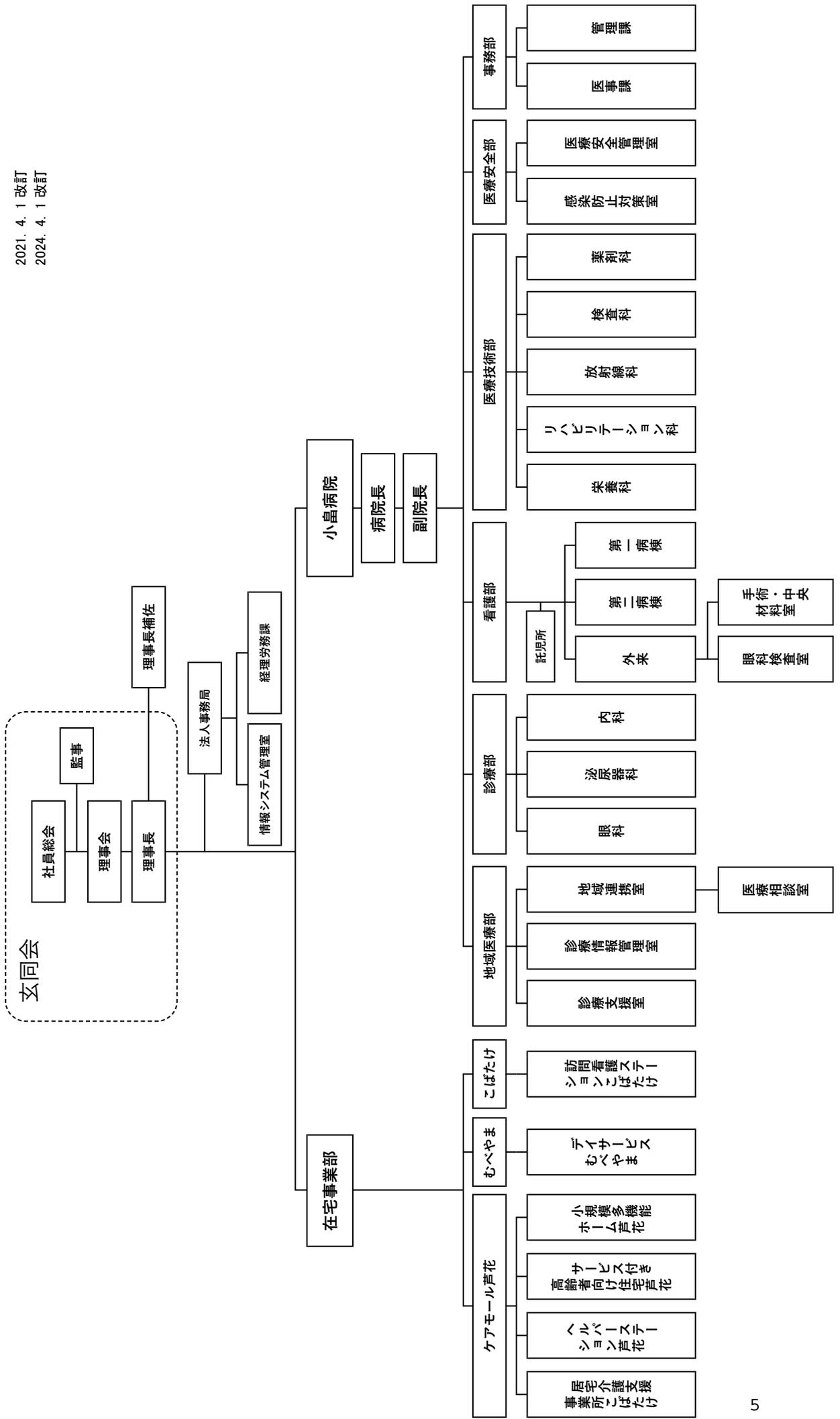
医療法人社団玄同会 組織図

2003.11.17 作成

----- 中略 -----

2021. 4. 1 改訂

2024. 4. 1 改訂



■概要

内科は初期診療の段階で適切な診察と検査で病因を究明し、早期診断を行い、最善の治療へ結び付けることを常に考え診療をしています。内科の診療対象となる疾患は数多くありますが、当院では一般内科の他、理事長の専門とする脳神経内科、院長による循環器内科・プライマリー医療、原医師による消化器内科に加え、非常勤医師による糖尿病内科および呼吸器内科の専門治療を行っています。

〈スタッフ〉

常勤医師……4名

非常勤医師…10名

■活動実績

2023年度の内科全体の外来患者数は延べ28,564人で、対前年度比11.2%増でした。(表1) 入院では新規入院患者数が790名、延べ入院患者数は30,939人となっています。(表2)

一般病棟の入院診療は、院長・内科医師と毎日交替で回診をしています。また、日々の患者さんの変化に細かく対応するため、コメディカルスタッフも含めたカンファレンスを毎朝行い、診断・治療を進めています。

入院症例は大腸ポリープが最も多く、続いて肺炎、心不全、悪性新生物、消化器系疾患（大腸ポリープを除く）、パーキンソン病となっています。糖尿病、呼吸器、循環器の各科専門医の在院日には専門医の対診も合わせて行っており、睡眠時無呼吸症候群は脳神経内科と呼吸器内科で診療しています。

2016年度より参加している福山市一般二次救急病院輪番制では、2023年度は当番回数44回、受け入れ患者数は257名でした。

在宅医療については、機能強化型在宅療養支援病院として39件の往診、688件の訪問診療を行い、349件の医学総合管理料を算定しました。(表3)

■診療実績・統計

表1：外来延べ患者数 (単位：人)

	2021年度	2022年度	2023年度
初 診	2,263	3,659	3,331
再 診	21,218	22,037	25,233
合 計	23,481	25,696	28,564

表2：入院患者数 (単位：人)

	2021年度	2022年度	2023年度
新規入院患者数	726	682	790
延べ入院患者数	32,108	30,170	30,939

表3：在宅関連件数等

(単位：件)

	2021年度	2022年度	2023年度
延べ往診件数	46	48	39
延べ訪問診療件数	647	685	688
在医総管・施医総管算定件数	323	348	349
在宅看取り件数	11	14	15

■ 脳神経内科

脳神経内科では2021年4月より常勤が1名増員となり、計4名（常勤2名、非常勤2名）の神経内科領域を専門とする医師が診療を行っています。

当科で診療している主な疾患は、頭痛や認知症などの有病率の高い疾患から、パーキンソン病およびその類縁疾患、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症などの神経変性疾患を主とする神経難病です。その中には、遺伝性脊髄小脳変性症やハンチントン病などの希少な遺伝性疾患を含みます。当院の脳神経内科診療で心掛けていることは、聴取した病歴や症状、顔貌や表情、そして記録した身体所見、神経学的所見の中から、病気のサインを見逃さないということです。そして外科的治療の必要なものを速やかに除外します。必要に応じて画像検査（MRI、DAT スキャンなど）は連携医療機関へ依頼しています。薬物療法以外にデバイス治療は大学病院などしかるべき病院へ紹介しています。

神経難病を患いながらも在宅療養を余儀なくされる方々に対しては、患者さんの介護を担われているご家族も支援できるよう、訪問診療、訪問看護、訪問介護サービスを行っています。また積極的にレスパイト入院も受け入れています。

当科には頭痛専門医が在籍し、頭痛診療にも力を入れています。2021年度より3種類の CGRP 関連抗体片頭痛治療薬が、新規作用機序をもつ片頭痛発作を抑制する薬剤として使用可能となりました。当院では発売当初よりこれらの新規薬剤を導入し、既存の片頭痛発作予防薬と比較しても優れた効果を認める薬剤として多くの患者さんに使用していただいております。

脳神経内科は高齢化とともに必要とされることが多い科であり、近隣のクリニックや病院の先生方と連携関係を密にしながら、当地域の患者さんに質の高い医療サービスを提供していきたいと考えています。

なお、急性期の脳血管障害（脳卒中）で専門的治療を選択される場合は、基本的には専門病院に依頼しています。当院では、発症後のリハビリテーション、再発予防など、急性期後の医療を担っています。

表1：外来の主な神経疾患

（単位：人）

		2021年度	2022年度	2023年度
パーキンソン病及び パーキンソン関連（※1）	初診	24	28	38
	再診	1,298	1,202	1,314
多系統萎縮症	初診	0	1	1
	再診	35	26	61
筋萎縮性側索硬化症	初診	1	2	0
	再診	17	16	25
脊髄小脳変性症	初診	3	1	2
	再診	318	269	307
ハンチントン病等その他	初診	1	2	2
	再診	70	69	57

※1 パーキンソン病・進行性核上性麻痺・大脳皮質基底核変性症を含む

表2：頭痛患者の内訳

(単位：人)

		2021年度	2022年度	2023年度	
片頭痛	初診	39	59	56	
	再診	722	684	756	
緊張型頭痛	初診	60	73	52	
	再診	1,287	1,235	1215	
群発頭痛	初診	1	3	2	
	再診	0	5	5	
MOH (※1)	片頭痛	初診	3	11	9
		再診	156	159	250
	緊張型頭痛	初診	0	1	1
		再診	0	7	5

※1 薬物使用過多による頭痛

■ 消化器内科

消化器内科では胸やけ、腹痛、嘔吐、便秘異常などの主に腹部症状を訴える患者さんを対象として各種検査・治療を行っています。

検査の結果、診断された食道癌、胃癌、肝癌、急性胆のう炎、膵癌、大腸癌、虫垂炎などの疾患は高次病院へ紹介し治療に結び付けています。近年増加傾向にある逆流性食道炎に対する維持療法や萎縮性胃炎や胃・十二指腸潰瘍、胃癌の原因であるヘリコバクター・ピロリ感染に対して積極的に除菌療法を行っています。また、高次病院からの癌終末期患者さんの紹介にも対応し、在宅や入院での緩和医療を行っています。

表1：消化器内科各検査・各処置件数

(単位：件)

	2021年度	2022年度	2023年度
内視鏡検査			
上部（食道・胃・十二指腸）	919	875	971
下部	404	379	392
内視鏡処置			
内視鏡的大腸ポリープ切除術	123	103	135
胃瘻造設術	42	33	28
胃瘻交換	154	175	178
腹部超音波検査	439	488	505

■ 循環器内科

循環器内科は常勤医が診療を行っているのに加え、週一回水曜および第1, 3土曜午前に岡山大学循環器内科学教室からの非常勤医師派遣を受けながら診療を行っております。当院は高血圧、心不全の高齢患者さんが多く、外来ではそういった患者さんの診察を行い、急性心不全や慢性心不全の急性増悪を認めた場合は入院での加療を行っております。急性冠症候群や明らかな重症弁膜症から来る心不全など、緊急での心臓カテーテル検査や手術が必要な場合は、患者さん本人やご家族とも相談の上、主に福山市民病院、福山循環器病院などの専門機関に紹介しております。緊急性は無いものの、後に心臓核医学検査、心臓カテーテル検査や手術といった侵襲的治療が必要と思われた患者さんについても専門機関に紹介しております。逆に専門機関からの継続加療目的にてご紹介いただいた患者さんについては、当院でお受けしています。

2023年度は心不全患者さんの数は前年度と比較して再診患者数が減少した以外は、大きな変化はありませんでした。ただ心疾患は今後増えていくことが予想され、昨年度から心不全教室を開始しております。今後も引き続き心不全教室や学会活動についても積極的に行い、また診療面においても皆様の期待に応えられるようにさらなる努力をしていく所存です。

引き続き当院でできる限りの対応や治療を行って行きたいと考えております。

■ 診療実績・統計

表1：外来の主な循環器疾患

(単位：人)

		2021年度	2022年度	2023年度
心不全	初診	76	57	55
	再診	2,815	2,550	2,488
不整脈 AF、PSVT含む	初診	16	18	17
	再診	1,270	1,049	1,018
弁膜症 AS、MR含む	初診	4	3	1
	再診	270	184	171
高血圧症	初診	219	251	177
	再診	13,994	13,443	13,587
先天疾患 ASD、VSD含む	初診	3	0	0
	再診	10	0	0

■概要

泌尿器科は泌尿器科専門医・指導医である常勤医師2名と非常勤医師とで診療にあたっています。また、日本泌尿器科学会教育施設であり、研修医の受け入れも随時行なっています。2023年度の外来患者数は延べ17,263人、新規入院患者数は714人でした。入院症例の内訳では結石が286例で最も多く、全体の40%を占めています。手術は経尿道的な結石手術および前立腺肥大症に対してのレーザー手術が増加しています。これからも積極的に結石・前立腺肥大症などの治療に取り組んでいきたいと考えています。

〈スタッフ〉

常勤医師…2名、非常勤医師…2名

■診療実績・統計

表1：外来患者数 (単位：人)

	2021年度	2022年度	2023年度
初診	2,634	2,784	2,697
再診	13,595	14,132	14,566
合計	16,229	16,916	17,263

表2：入院患者数 (単位：人)

		2021年度	2022年度	2023年度
新規入院患者数	男性	457	524	523
	女性	146	167	191
	合計	603	691	714
平均年齢		70.22歳	71.16歳	71.16歳
平均在院日数		8.47日	9.78日	8.56日

表3：入院総数の主な内訳 (単位：人)

		2021年度	2022年度	2023年度
悪性腫瘍	前立腺癌	85	84	72
	膀胱癌	71	78	76
	腎盂・尿管癌	14	9	7
	腎癌	0	0	2
結石	腎・尿管	213	227	245
	膀胱・尿道	33	40	41
炎症	腎盂腎炎	53	65	68
	前立腺炎	6	10	12
	精巣上体炎	2	3	6
	その他	5	8	9
良性腫瘍	前立腺肥大症	56	94	110
	その他	1	4	1
その他		64	69	65
合計		603	691	714

表4：手術総数の主な内訳

(単位：件)

		2021年度	2022年度	2023年度
結石手術	体外衝撃波による結石破碎術 (ESWL)	218	219	227
	経尿道的尿路結石摘出術 (TUL)	133	137	175
	経皮的尿路結石摘出術 (PNL)	4	4	2
	経尿道的膀胱尿道結石摘出術	35	45	53
前立腺肥大症	接触式レーザー前立腺蒸散術 (CVP)	0	34	53
	経尿道的前立腺切除術 (TUR-P)	9	8	4
	メモカス留置	0	0	0
	メモカス抜去	0	1	0
	被膜下前立腺摘出術	0	0	0
悪性腫瘍手術	後腹膜下腎尿管全摘出術	1	0	0
	経尿道的膀胱腫瘍切除術 (TUR-BT)	52	70	66
	膀胱生検	7	3	0
前立腺生検		102	127	115
その他		68	70	64
	合 計	629	718	759

■概要

当眼科は1992年6月の開設以来、31年目を迎えました。白内障や緑内障、加齢黄斑変性等の眼底疾患の診断・治療、コンタクトレンズや眼鏡の処方などを行っております。糖尿病や高血圧などの内科的疾患から目に症状がくることがあるため、内科と連携を図り、早期発見、診断・治療に努めております。

〈スタッフ〉

常勤医師……………1名

■診療実績・統計

表1：外来延べ患者数 (単位：人)

	2021年度	2022年度	2023年度
初 診	2,115	2,276	2,218
再 診	5,577	5,612	5,275
合 計	7,692	7,888	7,493

表2：各検査件数 (単位：件)

	2021年度	2022年度	2023年度
矯正視力	6,677	6,838	6,548
調節	87	79	81
負荷後屈折	21	21	11
眼圧	5,465	5,619	5,401
静的視野（オクトパス）	341	364	383
動的視野（GP）	6	9	10
精密眼底検査（片側）	10,374	10,872	10,603
眼底カメラ撮影	153	133	176
眼底三次元画像解析（OCT）	1,101	1,250	1,253
細隙灯顕微鏡検査	5,728	6,287	5,722
眼鏡処方	219	202	203
コンタクトレンズ処方	1,752	1,744	1,629